

地域住民とふれあう健康相談をおこなって

—農協がおこなう年金相談と併設して—

厚生連健康管理課 中村 春枝

I. はじめに

高齢化が急速にすすむなかで、地域の連帯が薄れ、生きがいのある心豊かな暮らしを、おくるうえでの問題が数多く生じている。

こうしたなかで、地域に密着した医療を進めるとともに、地域とのふれあいの場づくりをすることがもためられている。

この状況をふまえて、県下の各農協では、検診をはじめとして、スポーツ大会、健康教室、生活活動運動がたかまりつつある。

厚生連の健康管理課でも、地域医療の質を高めながら地域住民とのコミュニケーションと同時に、組合員を大事にするという意味から検診活動に重点を置いてきた。

そして、検診活動を通して健康相談を行な

い、もっと、地域住民とふれあう場があるのではないかと、地域にいかにか協力して行けばいいかということでも話し合った。

そのなかで、昭和63年より、県信連のおこなう移動年金相談と併行し、健康相談を実施してきた。その経過を、報告する。

II. 活動の概況

1. 農協における厚生連健康管理課の位置づけ

厚生連本所における独立した健康管理課は、保健事業の一環として、昭和58年に設置。農協からみた厚生連健康管理課の組織図、活動内容を、図1に示した。

厚生連健康管理課、高岡総合検診センター、

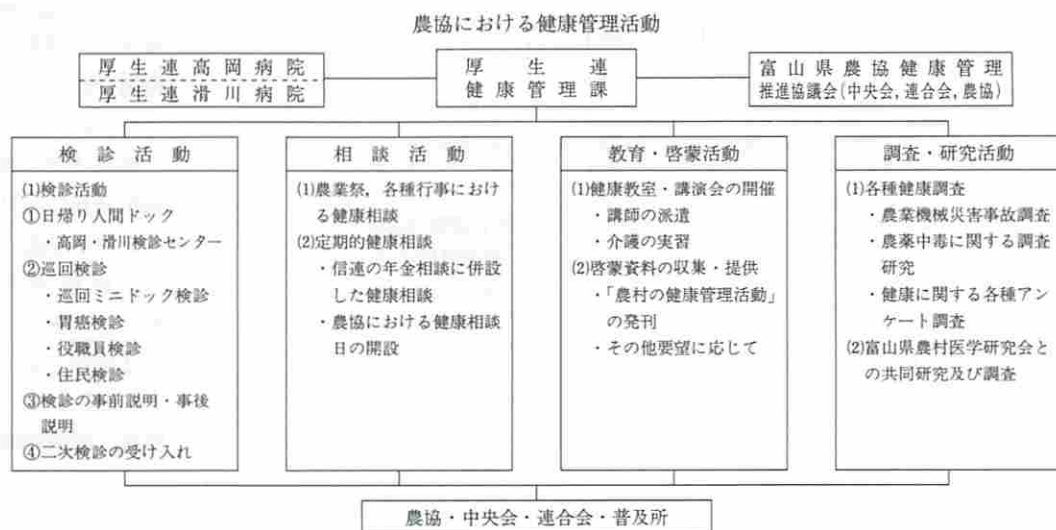


図1. 厚生連、健康管理課の健康管理活動

滑川総合検診センターが、一体となり予防、検診活動、体力づくりなどに、つとめている。

主な活動は、農協職員及び農家組合員の検診活動である。

次に、健康相談活動では農業祭など各種行事における健康相談コーナーや、検診の事前説明、事後の健康相談に力を入れている。

又、高齢化社会に対応するため、介護実習の講習や健康教育、健康づくりの講師を派遣し、教育、啓蒙活動をすすめている。

次に、調査、研究活動については、富山県農村医学研究会の協力を得て、農村の保健調査、農作業に起因する疾病調査等、実態把握と、その対策の確立につとめている。

今後、ますます進むであろう高齢化社会を迎え、ホームヘルパー養成の援助等、高齢者対策活動の活性化をはかるため、富山県農協健康管理推進協議会を再編成し、組織体制づくりにつとめている。

2. 県信連と連携した健康相談をおこなって

①経過

昭和57年より、県内農協(53本所、334支所)の要請のあった農協を対象として、移動年金相談開始。

昭和63年4月より、健康相談コーナーも併設、相談活動をおこなった。

年金相談は、県信連より担当相談員2名、健康相談は、県厚生連より看護婦1名が、あたっている。

相談の対象者は、年金相談はこれから年金を受給しようとする人や理解できない問題について個別相談をおこない、健康相談は、年金相談におとずれた人や、その他、地域住民を対象に個別相談に応じている。

農協では、農家組合員に図2のチラシを配布し、相談者を募っている。

②実施内容

血圧測定、検尿、健康相談

みなさまの農業協同組合

農協の年金・健康相談



相談のご案内

年金は、ますます皆さんに身近なものとなってきています。それだけに年金制度をよく理解しておくことが、あなたの将来を守ることにつながります。

当農協でも、年金の専門の方をお招きし、国民年金、厚生年金、各種共済組合、農業者年金等についているな手書きや年金を受けるについてのあらゆる相談、お受け取りになっているけれど理解できない問題等について、個別相談に応じますので、お気軽においで下さい。(お越しの際は、年金手帳(被保険者証)等をご持参下さい。)

また、当日は厚生連の看護婦さんにより健康相談も合わせて行いますので、お待ちいたしております。

年金相談・手続・年金受取りは近くて便利な農協で!

と き 月 日 ()

時より 時まで

と ころ

図2. 農協がおこなう年金、健康相談チラシ



③実績

①相談者数

昭和63年4月～平成4年3月迄、延べ、2847名の健康相談をおこなっている。

一回の相談時間は、3分～30分と、まちまちであるが、相談者が納得するまで対応している（表1）。

②相談者の年齢、性別構成

年金相談と併設しておこなっているため、相談者は50才代後半から、60才代前半が、全体の83%を占めている（表2）。

表1. 移動健康相談者数

年度 区分	昭和63年	平成1年	平成2年	平成3年	計
相談者数	860	609	765	613	2847
相談した場所 (農協)	119	103	107	96	425

表2. 相談者の年齢・性別構成

年度 性別 年齢別	平成2年度		平成3年度		計
	男	女	男	女	
20才代	2	1	2	1	6
30才代	13	12	13	11	49
40才代	13	26	21	21	81
50才代	88	133	59	92	372
60才代	159	250	139	224	772
70才代以上	53	15	15	15	98
計	328	437	249	364	1378

(H 2. 4 月～H 4. 3 月迄の人数)

相談者は、「これから年金を受給するには、どうしたらいいか？。いや、年金もらう額も大事やけど……長生きしないことには……。」
「看護婦さん、私の血压どうけ？」と、健康に対する関心度へとつながった。

④相談内容

相談内容は、ほとんど健康に関する悩みが、もっとも多く、85%を占めている。

次に、家族間のいざこざや嫁さがし等、心の悩みが、15%となっている。

健康に関する悩みでは、高血圧、腰痛、頭痛、膝痛、胃腸の具合が悪いが……など、医師に相談するほどでないが、日頃の気になる症状についての悩みが多い。

専門医の判断が必要と思われる場合は、近医の受診を勧めている。

次に、相談内容の主なものを紹介すると、
<例1>

「いつも、血圧が高いといわれるか……今日は、どうけ……。べつに、痛くも、かゆくもないし、ほってあるがいけど……。」

(男、60歳)

今日の血圧は、150/90 mmHg で、正常と高血圧の境ぐらいなので、生活指導と食事指導をおこなう。今後も、機会ある毎に、血圧を測ってもらうように、アドバイスする。

<例2>

「この前、検診受けたら、コレステロール

が高いといわれたがいけど……そして、やせ
いわれたけど、なかなか、やせられんわ……。」

(女, 61歳)

今日の血圧は、148/90 mmHg なので、まあ
まあ、おおめにみて正常なんだけど、コレス
テロールが高くなると、血液がドロドロと流
れにくくなり、血圧も少しあがってきている
みたい。やはり、やせるのは、むずかしいと
思うが、食事指導と運動というか、体を動か
すようにアドバイスする。

<例3>

「3週間前、おたくの検診を受けて、胃が
おかしいから、もう一度、病院で精密検査を
受けるように言われたので、総合病院で検査
したら、すぐ手術をするように言われたがい
けど……、やはり、癌かね？」

(男, 57歳)

ここ、5～6年程、胃の検診を受けなくて、
久々に検診を受け、こんな結果が出て、不安
は、かくせない表情。不安と恐怖との葛藤の
最中……。誰かに、同意を得たかったのだろ
う。なるべく早く、手術を受け入れるように、
助言する。

<例4>

「2年前、5年間寝たきりの祖母を亡くし、
その1年後に夫を胃癌で亡くした。その時か
ら、自分は物を食べようとすると、食道から
胃を通っていかなくなったので、近くの病院
へいった。自律神経失調症といわれ、眠り薬
を飲み、5カ月たったが、まだ、飲み続けな
ければ、いけないでしょうか。」

(女, 60歳)

家庭における人間関係や心の悩みについて

は、未熟な私にとっては、どう対応してい
いのか、わからず相談というか、相手の話を、
ゆっくり聞くことにした。相談者が落ち着いた
ところで、薬は少しずつ、回数、量を減ら
すようにアドバイスする。

III. あとがき

厚生連の地域医療に、たずさわる看護婦と
して、検診活動や健康教育、健康相談に参加
してきた。

そのなかで、農協のおこなう年金相談に併
設し、健康相談を実施した。

その結果、組合員及び地域住民から、「あ
れ！ただけ……、そんなら血圧測ってよ
……。」等と、話しかけられたり、農協とい
う場所や、同じ組織であるという仲間意識から
か、気軽に相談された。

農協を仲介として、少しずつ地域との、つ
ながりができ、コミュニケーションの場とも
なり、好評を得た。

今回の活動を通して、健康管理が必要なん
だなあとか、このような活動に参加したほう
が、いいんだなあという意識が、地域住民に
高まればと望んでいる。

その結果、「やっぱり検診を受けなくちゃ。」
という意識が高まり育つようにと、運動して
きた。

しかし、件数は、まだまだ少なく、地域の
人達との結びつきは、きわめて不十分のまま
である。

今後も、この活動を継続的におこない、健
康への意識づくりと共に、話しあえる、ふれ
あいの場となることを願っている。